



写真-1 新緑に映える山田池堰堤（令和2年4月撮影）

■ 新緑の山中に静かに佇む山田池堰堤

呑吐（どんど）ダムが望める展望広場に車を止め、衝原湖（つくはらこ）左岸沿いを走る主要地方道 85 号・神戸加東線を東へ約 800m 行くと「太陽と緑の道^{※1}」の案内板があります。ここが山田池への登山口で、コシダ群落の山道（写真-10）を通り約 500m 行くと山田池に着きました。（山田池周遊道は平成 28 年 3 月から通行禁止）鮮やかな新緑の中に佇む山田池堰堤（写真-1）は、満々と水を湛えて自然の中に溶け込んでいました。

山田池堰堤右岸側の説明板には、山田池について以下のように記されています。

「山田池は、淡山疏水^{※2}（たんざんそすい）の補助水源として 1933 年（昭和 8 年）に完成した粗石モルタル造の重力式ダムです。戦前に造られた重力式の農業用ダムは、全国で数例しかなく珍しいものです。ダムの表面は花崗岩の間知石が布積みされ、取水塔や 3 連アーチの余水吐（洪水吐）などには随所に美しい装飾が施されています。現在は、東播用水により用水が受益地へ安定して供給されることから貯水利用はされていません。しかし、その歴史・文化的な価値から、山田池の堰堤など関連施設は後世に伝え残すべき近代化産業遺産に認定されています。」



写真-2 呑吐ダムと衝原湖

※1 太陽と緑の道：昭和 47（1972）年、神戸の豊かな自然を気軽に散策し、人と自然のふれあいを図ることを目的に設定された自然歩道。北区・西区の太陽と緑豊かな地域を中心にコースを設定していて、現在の総延長は約 165km となっている。

※2 淡山疏水：農業水利に乏しく畑作が中心であった印南野（いなみの）台地の農業を米作中心へと転換していくために、明治から大正初期にかけて整備された疏水。神戸市北区淡河町木津（淡河頭首工）から神戸市西区神出町（練部堰分水所）までの淡河川疏水（延長26.3 km）は明治24（1891）年に完成し、神戸市北区山田町（取入堰）から淡河川疏水幹線の宮ヶ谷池までの山田川疏水（延長10.8 km）は大正8（1919）年に完成している。これら二つの疏水を合わせて「淡山疏水」と呼んでいる。



図-1 つくはら湖と山田池周辺の地図

■ 大正13年の大干ばつを契機に山田川疏水の補助水源として建設される

水不足のため水争いが繰り返されてきた印南野台地の農業事情は、淡山疏水の完成により一変します。畑から水田への転換が進み、開墾した水田の生産性は大きく向上しました。しかし、疏水完成後も新規の開墾が相次いだこともあって、夏期の灌漑時に水源からの通水がないため、しばしば用水不足が発生していました。

そのような状況の中、大正13（1924）年に大干ばつ（空梅雨）が発生します。東播地方では6月1日から103日間も雨が降りませんでした。9月12日になってやっと雨が降りましたが、すでに出穂期（しゅつすいき）を過ぎていて収穫はほとんどなかったそうです。

「淡河川山田川^{※3}普通水利組合」では、山田川疏水の供給能力を強化するため、補助水源として山田池堰堤を建設する構想が提案されますが、山田川疏水の建設に伴い多額の債務を抱えた組合ではとても手に負えるものではありません。ちょうどその頃、政府は大規模な排水幹線改良事業に補助金を出すことを決めます。ただ、この事業は国庫補助5割、県負担1割5分、残額が組合負担ですが、事業区域の採択要件が受益面積500町歩以上ということで、これだけ広域になると地理的にも地形的にも、旧来の水利慣行を根本的に改変することが必要になり、かなりの困難が予想されることから事業



図-2 淡山疏水概略図（『淡河川・山田川疏水記録誌』から引用・加工）

化を見送る地区が多々あったようです。兵庫県下では、昭和初期に本事業により実施されたのは、山田池と昭和池（加東郡三草）のみです。

県は、淡河川・山田川普通水利組合の要望を踏まえ、昭和2（1927）年1月実地踏査並びに設計調査に着手します。同年12月設計を完了し、昭和3（1928）年8月県参事会において、事業費総額30万円、昭和3（1928）年度より向こう5ヶ年の継続支出により県営事業として執行する承認を得て、同年9月農林大臣に国庫補助申請をします。同年12月県営武庫郡山田池用排水改良事業として採択され、3割5分の地元負担分については起債の許可を得ます。そして、昭和4（1929）年4月山田池堰堤建設工事に着手します。

※3 山田川：従来、神戸市北区上谷上と同市灘区六甲山町の石楠花谷（しゃくなげだに）を源流とし、いったん北上して西向きに流れを変え、多くの支流を集めながら志染川（しじまがわ）に合流する川を山田川と呼んでいた。昭和39（1964）年の「新河川法」制定に伴い山田川の名称はなくなり、下流端の美囊川（みのがわ）合流点から上流端は大池川の合流点までの延長23,199mが志染川とされている。

■ 農業用ダムとしては全国に数例しかない粗石モルタル造の重力式ダム

山田池堰堤は、武庫郡山田町（現・神戸市北区山田町）の加古川水系美囊川の左支川・山田川（現・志染川）の小支流（一ノ瀬谷川：法定外河川）に建設された粗石モルタル造の直線重力式ダムです。堰堤および貯水池の諸元は下図に記載のとおりですが、堆砂の影響もあって、現在は貯水容量が約233千 m^3 、満水面積は3.1haと減少しています。

県内では、南あわじ市にある農業用ダムの上田池（こうだいけ）堰堤（堤高41.5m）が同型式のダムで、山田池堰堤の先輩に当たります。上田池は、大正15（1926）年1月着工し、昭和7（1932）年4月竣工していますが、山田池堰堤は昭和4（1929）年3月着工し、昭和8（1933）年3月に竣工しています。

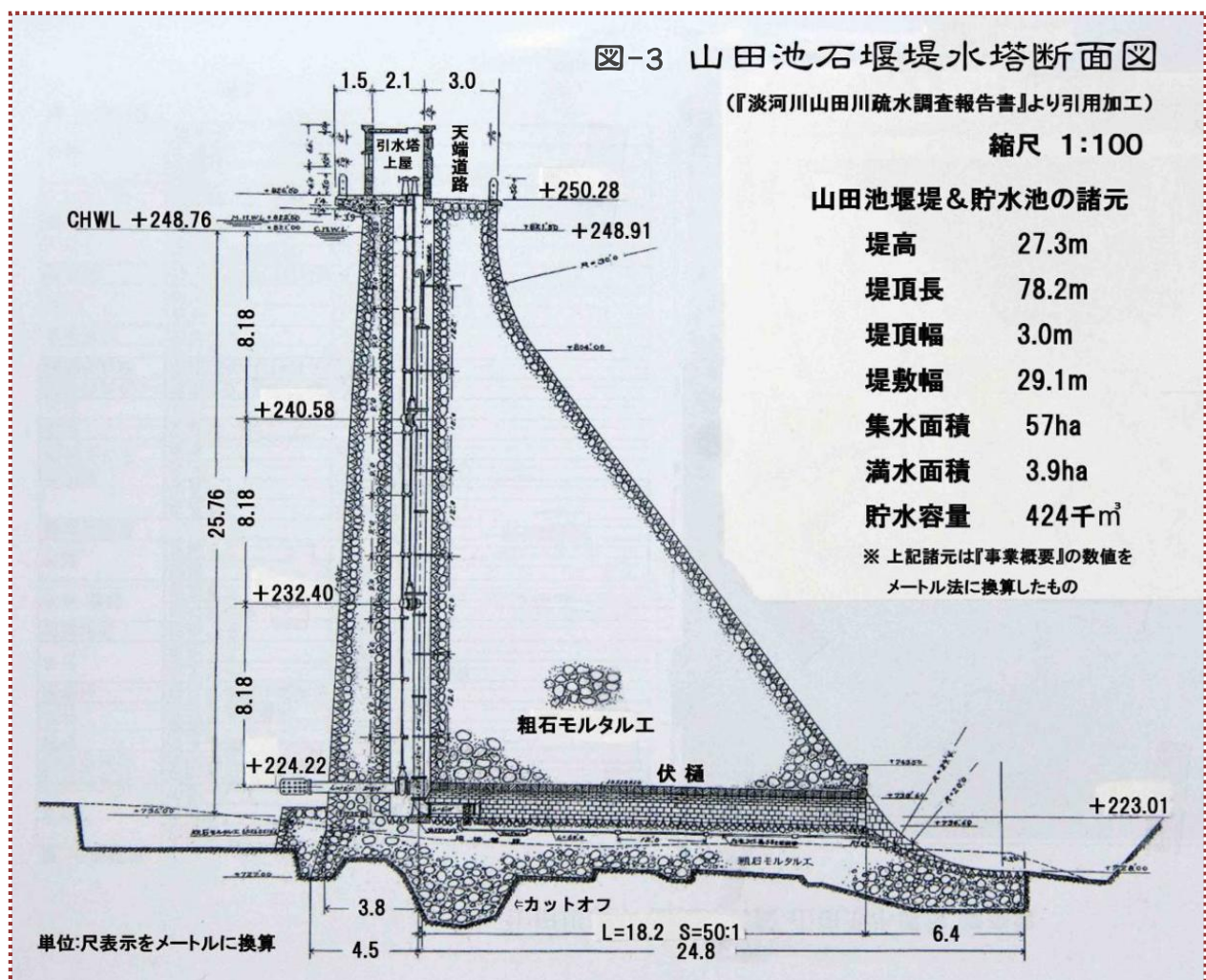




写真-3 堰堤天端から山田池を撮影



写真-4 天端から下流面を撮影（勾配きつそう！）



写真-5 山田池堰堤の天端道路



写真-6 伏樋の吐口



写真-7 堰堤天端から直下を見る

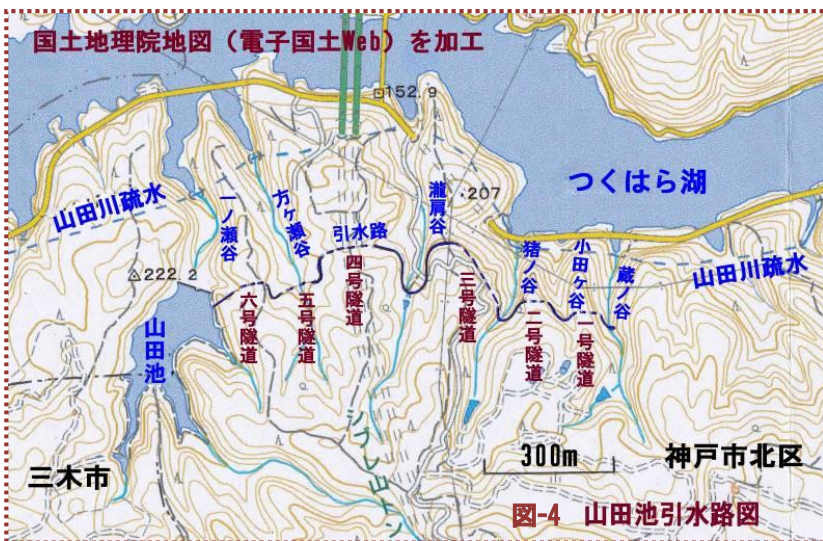


写真-8 山田池堰堤引水塔

■ 引水路を設けて集水面積を倍にする

山田池の貯水については、本来灌漑期間中は下流の既得水利権のために貯留できないはずなのですが、加古川の三次支川で集水面積が57haと小さいこともあってか通年貯留ができたそうです。

しかし、通年貯留してもなお満杯にならなかったようで、昭和 10 (1935) 年 8 月から昭和 12 (1937) 年 5 月にかけて引水路 (L=2,418m) を整備し、山田池東にある5つの沢の水を山田池に導水しています。この引水により、集水面積は 58ha 増えています。



なお、引水路の建設に際して、6本の隧道 (L=404m) が掘られています (図-4)。

■ 淡山疏水から東播用水に移行

淡山疏水では、幹支線水路 83km を敷設し、80ヶ所を超える新たな溜池を築造することで、1,950ha に及ぶ広大な印南野台地を潤してきましたが、加古川の二次支川である志染川流域だけでカバーするには限界があり、疏水完成後も干ばつによる水不足が頻繁に発生していました。

一方、県南部に位置する神戸市、明石市、加古川市、三木市および稲美町にまたがる 7,124ha に水を供給するため、加古川流域に建設する吞吐ダム (平成元年完成)、大川瀬ダム (平成3年完成)、川代ダム (平成4年完成) の3ダムを約 36km の導水路によって連結する東播用水農業水利事業が昭和 45 (1970) 年度に着工されました。加古川の支川である東条川や篠山川も水源に取り込んだ事業は、22年の歳月をかけて平成 4 (1992) 年度に完工しました。

そして、平成 28 (2016) 年、東播用水土地改良区は、受益地が重複する淡河川山田川土地改良区を吸収合併し、水士里ネット東播用水に改組、現在に至っています。

■ モノローグ

何年か前に山田池のことをネットで調べていたら、「マムシが出るので注意！」という記事がありました。ヘビが苦手な筆者はこの記事を読んで現地調査を長らくためらっていましたが、「太陽と緑の道」を500mほど歩くと山田池に着くという新情報を得て現地調査を敢行することに。

ビビる気持ちを抑えながら山道を歩くこと約10分、目の前に現れた山田池は、快晴の下、鮮やかな新緑が満水の湖面に映り、いい写真を撮ることができました。「イヤッ、来てよかった！」

ところが堰堤右岸の説明板を見ている時、足元近くで「ガサガサ！」と音が。来る途中、トカゲの動く音は何度も聞いていたのですが、今回はちょっと音が重そうで不吉な予感が。音がした方を見ると案の定太くて長い胴体をクネクネしながらヘビが動いています。何となく毒ヘビではないようで、先方が逃げてくれたので一安心。後で調べると「シマヘビ」でした。

この日、2匹のシマヘビに遭遇しましたが、そのたびにノミの心臓に大きな負荷が。毒は持っていませんが、あまり気持ちのいいものではありません。



写真-9 コシダ

コシダ (小羊歯)

ウラボシ科コシダ属の常緑多年生シダ植物。貧栄養の土壌に好んで生育、時に背が高くなるシダ植物で、乾燥した山野に密な群落を作る。ウラボシに様々な点で似ているが、葉が繰り返して二又分枝する点で異なる。山田池に向かう山道の両側に密な群落を形成していた。葉は硬く、繰り返して二又分枝する。樹木がその上を覆うと、光量不足から衰退し、消滅する。

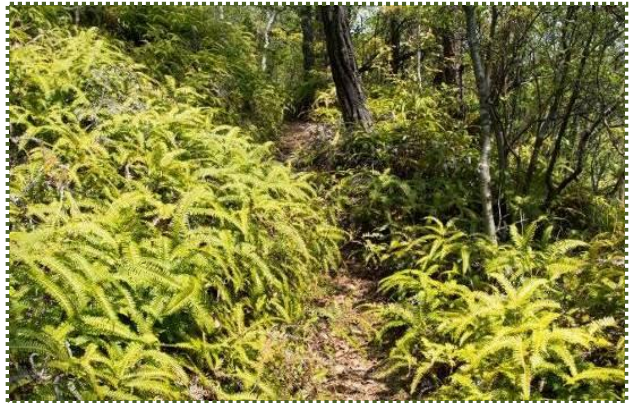


写真-10 コシダ群落

【参考資料】

- 1 『兵庫のため池誌』 兵庫県農林水産部農地整備課 昭和59年3月
- 2 『自然歩道「太陽と緑の道」』 神戸市HP
<https://www.city.kobe.lg.jp/a17526/kanko/leisure/taiyou/index.html>
- 3 『淡河川・山田川疏水記録誌』 いなみ野ため池ミュージアム運営協議会 平成12年3月
- 4 『共生のひろば～加東市のため池調査から見えてきたもの』 岸本清明(人博地域研究院) 平成25年3月
- 5 『山田川引水路新築工事』 兵庫県淡河川・山田川普通水利組合
- 6 『つくはら湖、志染川、山田川、山田川疏水、コシダ』 フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

※発行：令和2(2020)年11月 『ひょうご水百景』No.114

改訂：令和8(2026)年4月 『ひょうご水百景』No.114